

棚田学会通信

第52号 目次

特集 棚田は芸術 (Ⅱ)	1
日本の棚田百選紹介	6
事務局ニュース	8



揚州周延作「更科田毎の月」(提供：千曲市教育委員会)

特集 棚田は芸術 (Ⅱ) —棚田の芸術性—



千葉県鴨川市 (撮影：永田博義)



四十八枚田に映る月
(写真提供：千曲市教育委員会)

棚田の芸術性すなわち美しさが最初に見いだされたのは、恐らく嫉捨の「田毎の月」ではないだろうか。遊行(観光)好きの国民性も後押しし、生産と生活のための棚田のひな壇状の造形が名月との組合せによって審美的価値を帯びたのである。この「田毎の月」のモチーフはその後も再生産され続けるのであるが、当初そこには、永田氏の言う「勤勉なる風景」の意味合いは必ずしも強くはなかった。そして今日、カメラを向け、絵に描き、時には詩や歌に詠む。これら棚田に向けられるまなざしにおいて、その「勤勉なる風景」にこそ審美性の原点があることを我々は十分理解しているのである。

(棚田学会編集委員会)